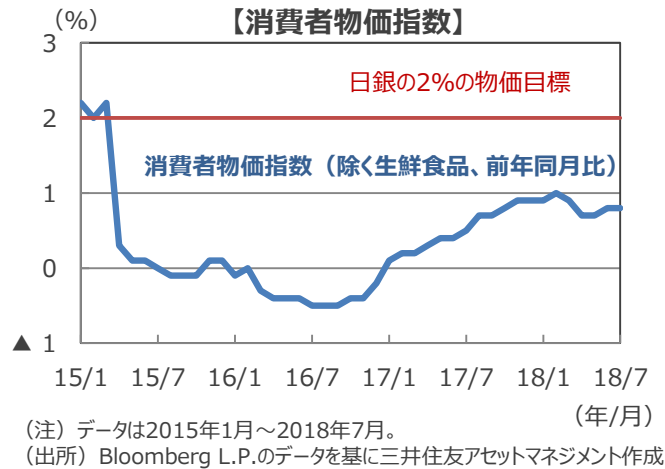


**今日のトピック 日銀の金融政策は現状維持（2018年9月）
前回決定会合での修正効果を見極め**

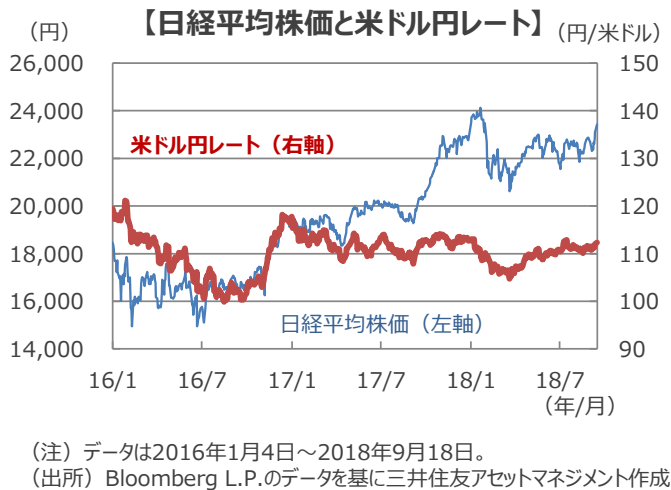
**ポイント1 金融政策は現状維持
市場の予想通り**

- 日銀は19日に市場の予想通り、金融政策の現状維持を決定しました。短期の政策金利を▲0.1%、長期金利である10年物国債利回りをゼロ%程度に操作する金融調節を維持します。また、長期国債を買い増すペースも年約80兆円を目途とすること、フォワードガイダンス（先行きの指針）等も据え置きました。
- 日銀は前回7月末の決定会合で、金融政策の枠組みを変更し、今回の会合では政策修正効果を見極めるため、さらなる変更は見送ったとみられます。



**ポイント2 景気、物価判断等据え置き
リスク要因として保護主義など**

- 日銀は、国内の景気判断を据え置き、先行きの経済については、「緩やかに拡大している」との見方を維持しました。個人消費については、「緩やかに増加している」とし、設備投資、輸出、公共投資も見方を維持しました。また物価については、「横ばい圏内で推移している」とし、変更ありませんでした。
- 日銀はリスク要因として、米国のマクロ政策運営やそれが国際金融市場に及ぼす影響、保護主義的な動きの帰趨とその影響等をあげています。



今後の展開 決定は想定内、緩和継続は円安・株高要因

- 7月の消費者物価指数は生鮮食品を除くベースで前年同月比+0.8%の上昇にとどまっており、日銀は物価目標達成に向けて、金融緩和を継続していくとみられます。
- 欧米の中央銀行が金利引き上げや量的緩和の終了に向かう中、日銀の緩和維持は円安・株高要因となりそうです。ただし円安・株高が進めば市場は、日銀の出口戦略を意識する動きになっていくとみられます。

ここもチェック! 2018年9月14日 年内で量的緩和を終了するECB（2018年9月）
2018年7月31日 日銀は金融政策の枠組みを一部変更（2018年7月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。